

令和7年第4回周南市議会定例会一般質問通告一覧表
(令和7年9月4日～9月9日)

1 藤井康弘（志高会）

1 2050年カーボンニュートラルに対する現在の本市の基本的立場について

- (1) 世界最大の天然ガス輸出国であるロシアによるウクライナ侵略という暴挙に対し、EUやイギリスなどの西側先進諸国はロシアに対する経済制裁を発動している。このロシアからの天然ガスや石油の輸入制限によるエネルギー不足という事態を受け、脱炭素政策はどうあるべきかについて、日本においても「今は脱炭素など言っている場合ではない」「もうカーボンニュートラルの看板は一旦降ろして石炭火力発電を積極的に活用すべきだ」といった意見も出ている。しかし、EUやイギリスでは、短期的には石炭火力発電の継続等によって対応せざるを得ないとしても、中長期的にはロシアの化石燃料への依存から脱却する機会と捉え、むしろ再生エネルギーの拡大等による脱炭素の取組をより加速させるべきだという立場が主流と言える。国あるいは地域によって事情や条件は異なるとしても、脱炭素政策に対する基本的な立場としては、後者が妥当であり、本市も電力不足を理由に脱炭素の歩みを止めるようなことはあってはならないと考えるがどうか。
- (2) とは言え、本年1月、温室効果ガスによる地球温暖化自体を否定するトランプ氏が再びアメリカ合衆国大統領に就任し、早速アメリカはパリ協定から離脱した。もともと、中国が2050年ではなく2060年カーボンニュートラルを国際公約としているのに加え、アメリカがパリ協定から離脱したとなると、CO₂排出量の世界1位と2位が2050年カーボンニュートラルの枠組みから外れたことになり、2050年カーボンニュートラルはもはや完全に絵に描いた餅になったと言わざるを得ない。ただ、そもそもなぜカーボンニュートラルは2050年なのかというと、最悪の場合、産業革命前から1.5度気温が上昇すると、それがティッピングポイントとなって一気に5度くらい気温が上昇し、もう幾らCO₂を減らしても気温が下がらないホットハウスアースという灼熱地球になってしまうという気象学者らの警告を受けたことによるもので、気温上昇を1.5度以内に抑えるためには2050年までにCO₂等の温室効果ガスの排出を実質ゼロにする必要があるという計算から、2050年カーボンニュートラルという脱炭素政策が打ち出されたと理解している。ところが、実は、既に、昨年2024年に、産業革命前から1.5度を超えて気温が上昇してしまっているのである。しかし、人類にとって幸せなことに、ホットハウスアース現象は起きていない。もともと、温室効果ガス・地球温暖化・気候変動の間の因果関係については客観的なデータに基づいた明確なエビデンスがあるが、2050年カーボンニュートラルは、あくまでも気象学者の警告に基づいた政治的テーゼにすぎない。もちろん、生活に支障を来す異常な暑さや気候変動によって頻発している災害を防ぐためにはカーボンニュートラルを実現することが絶対に必要であることに何ら変更はない。しかし、2050年カーボンニュートラルの根拠が稀薄となり、パリ協定の枠組みも脆弱となった今となつては、少なくとも2050年カーボンニュートラルは人類が滅亡するのを防ぐた

めに絶対実現しなければならないノルマではなくなり、人類が安全で暮らしやすい気候を取り戻すために必要な目標となったと考えるのが妥当である。そこで、市としても、2050年カーボンニュートラルを、実現を目指すべき努力目標であると明確に位置づけ、カーボンニュートラル実現のための具体的戦略についても、2050年という呪縛に囚われ短兵急に結論を出すことは避けて、中長期的なパースペクティブから最も効果的・合理的・経済的な戦略を選択するという姿勢が重要になると考えるがどうか。

2 カーボンニュートラル実現のための基本戦略となる燃料アンモニア戦略の実装化について

- (1) 件名1で述べたように、本市の全てを投げ打ってでも2050年までにカーボンニュートラルを何が何でも実現しなければならないとまでは考えなくてよいとしても、既に世界標準になっている2050年カーボンニュートラルを目指して官民一体で最優先事項として取り組まなければならないことには変わりはない。しかし、本市の場合、安価だが大量のCO₂を排出する国内最大の石炭火力自家発電をエネルギー源とする石油化学コンビナートが基幹産業であることから、カーボンニュートラルはまさしく、言うはやすし行うは難しである。もし、本市が膨大な産業用電力をも賄えるだけの太陽光発電や風力発電などの再エネ資源に恵まれていれば、最近の再エネ電気のコスト低下傾向を考えると、単純明快な再エネ戦略もしくは、不安定な再エネ電力を補うために再エネプラス水素戦略でいけばよい。しかし、残念ながら本市にそのような再エネ資源はない。そこで、令和4年9月議会では、オーストラリア等の海外の豊富で安価な再エネ電気で水を電気分解して得た水素（グリーン水素）と空気中の窒素を合成してアンモニア（グリーンアンモニア）を製造し、液化アンモニアにして日本に輸送して、燃やしてもCO₂が出ないアンモニアを石炭の代わりの燃料にして発電するという燃料アンモニア戦略を推しの戦略とする一般質問をし、令和6年7月議会では、石炭火力発電を維持して、排気ガスからCO₂を分離・回収・貯留するCCS戦略を推しの戦略とする一般質問をしたところであるが、今まではどちらかと言えばCCS推しだった私が、今回明確に燃料アンモニア推しの一般質問をするのは、先般、環境建設委員会で出光興産株式会社徳山事業所を視察し、燃料アンモニア戦略が実装化へ向けて着実に一步を踏み出そうとしていることを確認することができたからである。同社の燃料アンモニア戦略は、アメリカからブルーアンモニアを輸送し、周南コンビナートの各社にパイプラインで供給して火力発電の燃料とするというものである。ブルーアンモニアということは、①再エネ電気で水を電気分解して水素を製造し、その水素を原料にアンモニアを製造するのではなく、②天然ガスの主成分であるメタン（CH₄）から水素（H₂）を製造し、その製造プロセスから排出される高濃度CO₂はCCSで地中に埋めて、その水素（ブルー水素）を原料にアンモニアを製造するものと考えられるが、ブルーアンモニアもCO₂フリーアンモニアであることに間違いはない。同社が、①グリーンアンモニアではなく、②ブルーアンモニアを採用するのは、現時点では、①再エネ水素からのCO₂フリーアンモニアよりも②天然ガスとCCSの組合せによるCO₂フリーアンモニアのほうが、かなり安価であるからと推測されるが、いずれにしても、CO₂フリーアンモニアの製造・調達から供給までのサプライチェーンの構築は、一民間企業だけ

でできることでは到底ない。周南コンビナート脱炭素推進協議会会長である市長主導の下、国・県も巻き込みながらオール周南で取り組む必要があると考えるがどうか。

3 水素先進都市からアンモニア先進都市への現実的な進化という意味での本市のメタモルフォーゼについて

- (1) これまで、本市は水素先進都市を看板の一つにしてきたが、コンビナートのソーダプラントで生成する副生水素を用いた水素利活用実証事業もあらかた終了し、現在は全国的に誇れるような水素の利活用が実際に活発に行われているとは必ずしも言えないのが実情ではないかと思われる。また、副生水素については、その生成過程で排出される CO_2 を CCS で処理しない限り、 CO_2 フリーのブルー水素とは評価されないという限界がある。そこで、これからの周南コンビナートは、燃料アンモニア戦略を脱炭素の基本戦略としてオール周南で取り組む必要があることを考えると、周南市もアンモニア先進都市へとメタモルフォーゼ（変身）すべきであると考え。もともと、次代のクリーンエネルギーの象徴的存在だが、そのままでは大量輸送が難しい水素をいかに輸送しやすくするかという水素キャリアの問題に対する最も現実的な解答としてアンモニアが注目されることになったという経緯からも、水素先進都市からアンモニア先進都市への変身は、外形の変化だけでなく内実の進化も伴った変身、つまりトランスフォームではなくメタモルフォーゼと称するにふさわしいと言える。ただ、水素に比べるとアンモニアはイメージがあまりにも地味なので、アンモニアのイメージアップ作戦からスタートする必要がある。例えば、イメージキャラクターとして、水素星からやってきた「アンちゃん」と「モニアちゃん」というアニメキャラクターを考案して、2人が力を合わせて「アンモニアパワー」で周南コンビナートから CO_2 をなくしていくという動画を市がつくって公開することで、アンモニアのイメージアップを図るというのはどうか。

4 画期的かつ理想的な水素キャリアと言ってよい水素化マグネシウムの利活用に対する市の支援策の検討について

- (1) 脱炭素社会を実現するための重要なクリーンエネルギーである水素を実際に利活用するための鍵となるのが水素キャリアであるが、先般、関係各位の御厚意により株式会社トクヤマの徳山製造所の工場見学之机をを与えていただき、水素化マグネシウムについての貴重な知見を得ることができた。水素化マグネシウムは、株式会社トクヤマが東京のベンチャー企業であるバイオコーク技研株式会社と共同で開発し、徳山製造所で製造を開始している生粋の水素キャリアであり、①水素を極めて高密度に貯蔵できる、②非常に軽いタブレット状のため安全かつ安価に輸送できる、③温水だけで簡単に水素ガスを生成することができるという特長を有し、今までの水素キャリアの問題点を全て見事に解決する画期的かつ理想的な水素キャリアと言ってよい。ただ、問題は水素を吸着させて水素化するマグネシウムにある。最も軽い金属であるマグネシウムは、資源としては地球上の至る所に豊富に存在しているが、マグネシウムの精錬はほぼ100%近くが中国で行われており、日本も中国からの輸入に頼っている。その中国では、設備投資が少なくて済む代わりに多量の CO_2 を排出し、環境負荷が大きいピジョン法でマグネシウムの精錬が行われているため、ライフサイクルアセスメントからは、水素化マグネシウムは CO_2 フリーと言えないこ

とになる。しかし、将来的にマグネシウムの精錬の問題が解決すれば、水素化マグネシウムは水素社会実現のゲームチェンジャーとなる可能性を持った水素キャリアであることに疑いはないので、本市としても将来を見据え、株式会社トクヤマと連携して水素化マグネシウムを利活用する実証事業を行う価値は十分あると考えるがどうか。

2 服部恭弥（志高会）

1 手話はいのち！周南市手話言語条例に基づく施策の推進について

- (1) 手話はいのち！周南市手話言語条例が施行されて5年たつが、施策の推進状況について、以下を問う。
 - ア 手話に対する理解の促進及び手話の普及を図るための取組について。
 - イ 手話の習得の機会の確保を図るための取組について。
 - ウ 手話通訳者の確保及び養成を図るための取組について。
 - エ 教育の場における手話に親しむ取組その他手話への理解促進のための取組について。

2 介護支援専門員について

- (1) 介護支援専門員の「シャドウワーク（法定外業務）」対策として、業務範囲についての利用者・関係機関への周知を図ってはどうか。

3 ケアプラン点検について

- (1) ケアプラン点検について、実施状況を問う。

4 周南市軽費老人ホームきずな苑について

- (1) 本施設の今後の方針は。
-

3 遠藤伸一（公明党）

1 市営住宅について

- (1) 本市では、平成27年度に周南市公営住宅等長寿命化計画を策定し、予防保全的な観点から修繕や改善の実施に努めてきた中、公営住宅を取り巻く環境が変化していることを踏まえ令和5年度に計画を改定した。そこで、以下を問う。
 - ア 空き室数・空き室率・入居率の推移は。
 - イ 長寿命化計画の対象と事業手法を選定する流れは。
 - ウ 建て替え事業における実施方針は。

- (2) 市営住宅の今後の在り方として、住宅セーフティーネットとしての役割を維持しつつ、まちづくりに資する政策的、戦略的な市営住宅の活用も検討すべきと考えるがどうか。

2 選挙について

- (1) 令和7年7月20日執行の参議院議員通常選挙について、本市における若者の投票率とこれまでの投票率向上への取組を問う。
- (2) 投票所及び開票所における秩序保持について、以下を問う。
 - ア どのような規定があるのか。
 - イ 規定に違反した場合、どのような罰則、処分があるのか。
 - ウ 方針として、撮影、録音及び通話を禁止してはどうか。

4 山本真吾（未来ラボ）

1 地籍調査事業について

- (1) 地籍調査事業の必要性について、どのように考えているか。
- (2) 現在の調査地区と、その進捗はどうか。
- (3) 現状の調査体制は。
- (4) 令和6年度末時点における山口県全体の進捗率63.8%と比べ、本市の進捗率は18.1%と芳しくないが、その要因は。
- (5) 調査地区の拡大や調査のスピードアップのために体制の強化や最新の手法の導入などを期待するが、市の考えは。

2 投票所の暑さ対策について

- (1) 本市の投票所の暑さ対策について、以下を問う。
 - ア 投票所のうち、冷房設備のない投票所は幾つあるか。
 - イ 冷房設備のない投票所において、暑さ対策は行われているか。
 - ウ 今後、冷房設備のある施設へ投票所を変更することやスポットクーラーの設置など、暑さ対策を強化する必要があると思うが、市の考えは。

3 公営ポスター掲示場について

- (1) 公営ポスター掲示場について、以下を問う。
 - ア 471か所から減らすことは可能か。
 - イ より効果的な場所に設置するよう見直しはされているか。

5 佐々木照彦（未来ラボ）

1 読書文化・活字文化の振興について

- (1) 令和7年6月に国が書店活性化プランを公表した。全国の無書店自治体は493自治体に上り、無書店自治体には図書館がないことも多いなど、読書活動を取り巻く環境は厳しい状況にある。地域における書店と図書館・自治体との連携が重要であり、読書環境の整備が求められているとある。そこで、以下を問う。
 - ア 徳山駅前図書館に書店が併設されている効果について、どのように考えているか。
 - イ 図書館資料購入費や図書館司書の配置の状況はどうか。
 - ウ 学校図書館資料購入費や学校図書館司書の配置状況はどうか。
 - エ 市民センター文庫や周南公立大学図書館との連携はどのようになっているか。
- (2) 本市においては、令和7年3月に第四次周南市子ども読書活動推進計画が策定された。この計画をどのように進めていくのか。

2 文化芸術の振興について

- (1) 本市では、文化芸術政策の基本的な方向性を定め、文化芸術に関する施策を総合的かつ計画的に推進する周南市文化芸術振興プランが今年新たに策定された。そこで、以下を問う。
 - ア 計画策定の目的は。

イ 文化芸術活動を推進する体制や環境をどのように整えていく考えか。

ウ 次世代に継承する文化資源の保存や活用等の方向性は。

3 児童生徒の学習環境の充実について

- (1) エネルギー・食料品価格の物価高騰や、労働力不足等の社会情勢が及ぼす児童生徒の学習環境への影響が懸念される。充実した学校生活をサポートする事業や修学旅行の実施にしっかりとした予算措置を講じてはどうか。

6 小池一正（公明党）

1 リチウム蓄電池等の適正な取扱いについて

- (1) 国から、市町村におけるリチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について令和7年4月に通知された。本市の対応について、以下を問う。

ア リチウム蓄電池等の回収・廃棄の取組は。

イ 適正処理に関する正しい情報の周知方法は。

ウ 廃棄する回収製品等の保管の方法は。

- (2) 小中学校におけるタブレット機器の取扱いについて、どのような周知を行っているか。

2 多文化共生社会への取組について

- (1) 外国人とともに地域で市民が安心して暮らせるための施策について、以下を問う。

ア 外国人居住者の人数と国籍別の推移は。

イ 外国人労働者を雇用する市内企業数と推移は。

ウ 共生を目指す本市の取組は。

エ 「やさしい日本語」の普及についての取組状況は。

- (2) （仮称）多文化共生推進協議会の設置を提案するが、本市の考えは。

- (3) 多言語翻訳機能付字幕表示システムを導入した外国人相談窓口（仮称ユニバーサル相談窓口）の設置を提案するが、本市の考えは。

3 最低賃金引上げに向けた中小企業・小規模事業者等への支援策について

- (1) 本市の中小企業・小規模事業者等の現状は。

- (2) 山口県よろず支援拠点のサイトに、国、県、各市の中小企業支援制度が掲載されているが、山口県よろず支援拠点の役割は。

- (3) 先端設備等導入計画制度の導入により、企業の賃上げ効果が期待できるがどうか。

- (4) 助成金等の申請は、専門家でも手続きが複雑で難しいと聞く。企業が申請を代行してくれる相談先を見つけられる仕組みはできないか。

- (5) 最低賃金の引上げに対応するため、県の支援制度と連携することで、より高い効果が期待できる。新たな賃上げ支援制度を市として創設し、県にも提案してはどうか。

7 小林雄二（市民の会）

1 誰でも遊べる「インクルーシブキッズパーク」の設置について

- (1) 近年、障害の有無に関わらず、あらゆる子供たちが一緒に遊べるユニバーサルデザインの視点を取り入れたインクルーシブ遊具の設置が全国でも広がっており、山口県内でも各

地で整備が進んでいる。全天候型の屋内広場もあるとのことで、以下について問う。

ア 市内におけるインクルーシブ遊具の設置状況はどうか。

イ 全天候型インクルーシブ遊具は市内にどの程度あるのか。

ウ 炎天下における子供の遊び場について、全天候型へのニーズもあることは把握していると思うが、中心市街地の空洞化を防ぎ、にぎわいの創出に資するためにも、とりわけ、中心市街地や旧市民館跡地などへの誰でも遊べる「全天候型インクルーシブキッズパーク」の設置は検討できないか。

2 小中学校特別教室への空調設備の整備状況について

(1) 小中学校体育館のエアコンの有無について、令和7年5月に受け付けた、まちづくり提言に対し、現在は特別教室への整備に向けて事務を進めており、体育館への整備については今後考えていくという趣旨の回答があった。そこで、以下について問う。

ア 体育館への整備についてはもちろんであるが、空調設備が未整備である小学校27校、中学校13校の特別教室約270室及び職員室等の管理用室約140室の整備実施は教育の最前線であり、早急に整備をすべきと思うがどうか。

イ 令和9年度までに供用開始目標とされているが、最優先事業として、より早く具体的に整備計画を立てて実施すべきと思うがどうか。

3 周南市公共施設再配置計画の改定について

(1) 策定から10年を迎え、基本方針や計画目標等を見直し、周南市公共施設再配置計画の改定がされようとしている。そこで、以下について問う。

ア 平成27年に策定された計画には平成22年度から20年後の地域別人口推移が示されているが、当時の予測と実際の推移との差異を踏まえて再度分析するのか。

イ 優先的に取り組むべき施設の優先度は既に示されているが、優先度評価の変更はあり得るのか。

ウ 現在、市民センター施設分類別計画において、グループ分けの変更により、評価グループから除くとされている須々万支所・市民センター、菊川支所・市民センター、和田支所・市民センターの整備状況はどのようになっているか。

8 貞本昌也（未来ラボ）

1 中山間地域における農業用水路の災害復旧に係る農業者の負担軽減について

(1) 中山間地域における農業用水路には、山の斜面など災害リスクが高い場所に設置されたものが多く存在しており、近年頻発する豪雨等により土砂堆積や破損などの被害の発生が増加傾向にあると聞く。こうした水路の災害復旧作業は、高齢化に伴う担い手不足により農業者にとっては負担が大きく、営農意欲の低下や離農につながり、地域農業の持続可能性が大きく損なわれるおそれが高まっている。そこで、以下を問う。

ア 被害発生現状を把握しているか。また、どのように対応しているか。

イ 被害発生予防的措置などに対し、市として支援を講じることはできないか。

2 高齢者や障害者を含む投票困難者の投票機会の確保について

(1) 高齢化の進行などにより投票所への移動が困難となる投票難民の増加が予測される。誰

もが等しく選挙権を行使できる環境整備は投票率向上につながる可能性もあり、重要であるとする。そこで、以下を問う。

ア 高齢や障害を理由に投票できなかった有権者の実態分析を行っているか。

イ 新たな投票手段として、全国の先進事例を参考に、移動期日前投票所やオンデマンド型移動期日前投票所などについて、本市においても検討できないか。

3 自治体DX推進と人事計画について

(1) 本市では周南市スマートシティ構想に基づき、オンライン手続や書かない窓口の導入等とともに、生成AI導入・支援業務委託の公募型プロポーザルを実施するなどの取組も進めている。こうしたDX推進の取組は人事計画と一体化させることで、市民サービスの向上と職員の負担軽減の両立が期待できると考える。そこで、以下を問う。

ア 本市のDX推進の現状と効果は。

イ 紙とデータの二重作業や新システム導入と既存業務の並行作業など、デジタルとアナログが混在するダブルトラック問題による職員の負担の発生状況と対策は。

ウ 生成AI導入・支援業務委託仕様書に、「職員が、人ではないとできない業務に注力できる環境を整備する」とある。この方向性を周南市職員配置適正化方針に盛り込むべきと考えるが見解は。

9 友田秀明（自由民主党周南）

1 サンフェスタしんなんようについて

(1) 令和8年8月1日開催予定のサンフェスタしんなんようが記念すべき50回を迎えるに当たり、昨年、新南陽商工会議所から市へ支援要請があった。市はイベント内容や来場者数、経済効果、来年度以降の社会情勢など様々な要素を総合的に判断した上で検討すると回答したが、市の検討結果は。

2 小規模事業者の育成について

(1) 市内小規模事業者は、景気の低迷、人件費や仕入れ等の高騰、さらに同業大手の市内進出によって大変苦しい状況にある。後継者問題も抱え存続の危機となっているが、この小規模事業者の市への貢献は雇用のみならず、地元密着型で、地域にとってはなくてはならない存在だと言える。そこで、以下を問う。

ア 市として、小規模事業者をどのように捉えているのか。

イ 支援策等は考えているのか。

3 選挙について

(1) 選挙での投票率向上のほか、投票所別投票率を公表するなど改善すべき問題点があると思うかどうか。

10 古谷幸男（自由民主党周南）

1 市民の要望・相談について

(1) 市民の様々な要望や相談に対する対応は十分か。

ア 窓口での対応は。

イ その他の問合せに対する対応は。

2 指定管理者制度について

(1) 指定管理者に対する市の責任を明確にしておくべきではないか。

ア 市の出資法人の場合は。

イ その他の場合は。

3 周南市内の上下水道業者について

(1) 修繕等に対応できる業者数について把握しているか。

(2) 地元業者の育成について、どのような考えを持っているか。

(3) 市民の安心安全のためにも、災害・緊急時に対応できるよう一定の仕組みづくりが必要ではないか。

1 1 金子優子（公明党）

1 本年7月30日に行われた避難訓練について

(1) 成果と今後の課題は。

2 防災・減災の取組について

(1) 地震・津波への備えについて、以下を問う。

ア 地震発生時や津波警報・注意報が発表された場合の対応は。また、市民にどのように周知しているか。

イ 災害時の火災発生を抑制するため、感震ブレーカー設置に対する補助はできないか。

(2) 避難所運営の強化について、以下を問う。

ア スフィア基準を踏まえた環境改善の取組は。

イ 災害時におけるキッチンカーの活用ができるよう提携をしてはどうか。

ウ 障害者や外国人への情報伝達はどのように行うのか。

エ 避難所でのトラブルや配慮が必要な方への対応方法などをテーマとした研修が必要と思うがどうか。

(3) ペットがいる市民に向け、日常生活における防災対策や同行避難における注意点などをまとめたガイドブックを作成してはどうか。

(4) 気象防災アドバイザーを活用してはどうか。

3 和田巡回診療所の現状と今後の地域医療の充実に向けた取組について

(1) 令和6年7月に、高瀬郵便局を活用した和田巡回診療所が開設された。以下3点の利用実績を問う。

ア 対面診療は。

イ オンライン診療は。

ウ 服薬指導は。

(2) 利用者の声としてどのようなものがあるか。

(3) 診療所を利用しやすくするための工夫は。

(4) オンライン診療の今後の展開はどうか。

1 2 江崎加代子（公明党）

1 市民の健康増進について

- (1) 带状疱疹ワクチン接種について、以下を問う。
 - ア 定期接種対象者が指定された年度に接種せず、翌年度以降に接種を希望した場合、どのように対応するのか。
 - イ 本市独自制度が2つあるが、接種者数は。
- (2) 様々な感染症が報告されている。市民の意識を高めていくため、情報発信が必要と考えるがどうか。

2 不登校児童生徒への支援について

- (1) 学びの保障のため、子供の居場所づくりは重要と考えるが、本市の取組は。
- (2) フリースクールも子供の居場所として考えられるが、本市での現状は。
- (3) 多様な学びの場がある中で、出席の取扱いについての考え方はどうか。

3 地域福祉の充実について

- (1) 第5次周南市地域福祉計画の策定を前に、地域福祉に関する意識調査に係る調査結果が示された。そこで、以下を問う。
 - ア 地域の困り事や生活上の課題はどのようなものであったか。
 - イ 地域の困り事の解決に向けて取り組んでいる地域はあるのか。
 - ウ 地域福祉活動への参加意向について、33%の人が参加したいと答えている。参加しやすくなる取組を考えてはどうか。

1 3 古賀洋子（志高会）

1 高齢者の健康について

- (1) 高齢者の健康に関する実態について、どのように把握しているか。
- (2) 高齢者の健康維持と医療費抑制を目的とした運動施設利用助成制度の創設について、以下を問う。
 - ア フィットネスクラブ等の民間施設を活用した健康増進施策の実績は。
 - イ 予防医療の普及に向け、高齢者に対するフィットネスクラブ利用助成制度を創設してはどうか。
 - ウ 医療費や介護給付費の抑制といった観点から、積極的に予防医療・健康投資を行う価値があると思うがどうか。

2 市営墓地の維持管理について

- (1) 本市における市営墓地の利用状況と今後の見通しについて、市の考えは。
 - (2) 全国的に進む墓じまいの傾向を踏まえ、従来型の墓地管理のほかに、どのような埋葬の在り方を検討しているのか。
 - (3) メタバース空間上につくられた仮想の霊園「メタバース霊園」について、検討の余地はあるのか。
-

1 4 細田憲司（輝）

1 小中学校体育館への空調設備整備の早期着手について

- (1) 近年、夏には連日40度近い暑さが続いており、猛暑が日本列島を襲っている。高校野球でも炎天下を避けるようになり、ますます屋内運動場の需要が高まると考える。今後も続くであろう尋常ではない暑さから子供たちを守るための熱中症対策、また、災害時の避難所としても体育館への空調設備整備はもはや待ったなしであり、国の支援もある今こそ、早期に着手すべきである。そこで、以下を問う。

ア 体育館への空調設備整備は特別教室の終了後に研究していくということであったが、進捗状況は。

イ 早期着手への最大の障壁は財源の確保ではないのか。有利な国の交付金や事業債を活用するほか、他自治体の先進事例に学び、早期着手すべきではないか。

ウ 夏に災害があった場合、空調設備のない体育館が避難所としての役割を果たしていると言えるのか。熱中症対策や防災の観点からも必要な取組ではないか。

2 中学校部活動の地域移行について

- (1) 令和7年3月定例会での輝の会派質問の最後に、市長から、子供たちの未来のため、教育委員会と一緒に市としてもできる支援を検討していくとの答弁があった。約半年後に迫ってきた地域移行の進捗状況等、全般について、以下を問う。

ア 地域クラブに加入している生徒数は。また、市との連携や保護者への説明等は万全か。活動場所の調整や確保はできるのか。

イ 令和8年度の予算を増額すべきと考えるがどうか。

ウ 指導者の確保、研修等はどうなっているか。

エ 活動場所への送迎や使用料の負担等について、支援は決まっているのか。

オ 今回の制度がスタートしても生徒があまり集まらず、帰宅部が増えたり、辞めてしまう子が増えた場合の対策は講じているのか。また、しゅうなんコミュニティクラブの役割は重要となるがどうか。

1 5 河井美和子（輝）

1 憧れるまちを目指す観光戦略について

- (1) 本市の観光を取り巻く現状について、以下を問う。

ア 観光で本市を訪れる宿泊者数の推移は。

イ 観光客一人当たりの消費額は。

ウ 観光による経済波及効果は。

エ 本市の観光の強みは。また、観光客数がコロナ禍前の水準に戻っていないが、その対策は。

- (2) 第4期周南市観光ビジョンについて、以下を問う。

ア 観光戦略の柱は何か。

イ 本市への「憧れ」、「行きたい」と思わせるマーケティング戦略はあるか。

- (3) 観光ブランディングによる本市の価値を高める取組について、道の駅ソレーネ周南のパ

ーク化や鹿野観光交流拠点施設整備の計画があるが、ナンバーワン戦略・オンリーワン戦略を打ち出してみてもどうか。

2 救急時の出動要請について

- (1) 本市消防本部管内の救急出動件数の推移と内訳は。
- (2) 救急安心センター事業（＃7119）の利用について、市民への周知方法は。
- (3) 離島における救急要請について、大津島で救急を要する事態になった際の現状は。

16 土屋晴巳（志高会）

1 帯状疱疹ワクチン接種の促進について

- (1) 帯状疱疹は50歳以上の発症が約7割を占め、80歳までに約3人に1人が発症すると言われている。本市は、令和6年度から65歳以上の市民を対象にワクチン接種を実施している。令和7年度は、国が65歳から5歳刻みの節目年齢の方を対象とした定期接種を行うことから、本市では節目年齢以外の方の任意接種を独自に実施している。そこで、以下を問う。

ア 令和7年度の定期接種・任意接種について、それぞれの接種状況及び市民の自己負担額は。

イ 令和8年度からは、本市が担っている65歳以上で定期接種を待たずに接種したい方のワクチン接種はなくなる。多くの方に接種をしていただくための周知方法も含め、ワクチン接種の促進に向けた具体的な取組はないのか。

2 避難所の質の向上について

- (1) 令和6年1月に発生した能登半島地震を踏まえ、避難所の在り方の見直しがされ、同年12月に内閣府（防災担当）は、避難生活における良好な生活環境の確保に向けた取組指針や避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン等を改定した。そこで、以下を問う。

ア 本市が指定する避難所は、この改定基準を満たしているのか。特に、トイレの数や生活空間の確保の観点から、1人当たりの面積は確保されているのか。

イ 各地区の市民センターが避難所に指定されているが、改定基準の適用対象となるのか。

ウ 今回の改定基準を満たさない場合は、今後どのように対応していくのか。

3 公共施設再配置計画の見直しについて

- (1) 平成27年8月に策定され、10年が経過した公共施設再配置計画が見直しとなる。令和7年5月に、10年見直しに向けた課題に関する資料が本市のホームページに掲載された。そこで、以下を問う。

ア 見直しにおける課題は何か。

イ 計画の実効性が求められる。実効性の向上に何が重要と考えているか。

ウ 第3次周南市まちづくり総合計画では公共施設等の総合管理を推進し、令和11年度の目標値として公共施設の延べ床面積の削減率を9.9%と定めている。しかし、令和5年度末の削減率は3.9%となっているが、計画の見直しにより目標は達成するのか。また、計画推進の主たる財源である公共施設マネジメント基金は、今後10年間で約70億円必要となるとも聞いている。見直し後は中長期的な財源確保も含めた計画とな

るのか。

1 7 岩田淳司（志高会）

1 周南市立地適正化計画について

- (1) これまでの改定内容と取組実績は。また、その成果をどう評価しているか。
- (2) 令和7年2月に5年見直しを行っているが、今後の取組の方向性を問う。
 - ア 居住促進区域へ誘導するインセンティブ的施策を検討していくべき時期と考えるがどうか。
 - イ 都市機能誘導区域と居住促進区域のいずれについても空き家の利活用による誘導を積極的に進めるべきと考えるがどうか。
 - ウ 今後約2,000人にもなる周南公立大学生及びその卒業生の居住・定住が本計画における大きなアドバンテージとなるが、その誘導策を考え、進めるべきではないか。
 - エ 上下水道施設の整備改修計画を本計画と連動させていくべきと考えるがどうか。
 - オ 大規模盛土造成地の扱いについては、積極的に見直しを考慮していくべきではないか。

1 8 西尾孝夫（市民の会）

1 民俗芸能の保護と教育について

- (1) 現状について、以下を問う。
 - ア 周南郷土伝統芸能保存協会の現状は。
 - イ 学校教育において、本市の歴史や文化を伝える上での基準を問う。
 - ウ 民俗芸能について、情報発信の現状は。
- (2) ガバメントクラウドファンディングの活用や、民間企業との関わりについての考えを問う。

2 スマートシティの推進について

- (1) 現状について、以下を問う。
 - ア オンライン手続の現状は。
 - イ 庁内への生成AI導入の状況は。
 - ウ ドローン訓練等の状況は。
 - エ ビッグデータの活用推進に向け、行政機関等匿名加工情報制度に関する民間企業との協定など、具体的な動きはあるのか。

3 周南市地域公共交通計画について

- (1) 現行の地域公共交通計画に基づく取組やその成果について、どのように受け止めているか。
- (2) 次期計画策定に向けて、以下を問う。
 - ア 国は、GTF Sなどのモビリティデータの活用を推進しているが、本市における取組状況は。
 - イ 公共交通に関する新たな指標として、クロスセクター効果が注目され始めているが、計画策定に向けて取り入れる考えはあるか。

ウ 交通系 I C の決済システム更新時のコスト等について、市の認識を問う。

エ 運転士不足についての市の考えは。

19 藤井直子（日本共産党）

1 周南市徳山駅前広場等条例について

- (1) 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法、いわゆる給特法の改定に反対するビラ配りに関する使用申請に対し、市が不許可としたことについて、以下を問う。

ア 特定の法案に対する啓発活動は誤認の助長につながるという理由で不許可としたことは、憲法第 21 条の表現の自由の侵害ではないか。

イ 法案に対して意見を有する市民の使用申請を不許可とすることは、憲法第 14 条の法の下での平等に反するのではないか。

ウ 労働団体の抗議に対して市は、許可の対象は公共的な啓発活動であり、給特法は公共的な啓発活動に含まれないと説明したが、公立学校の教員の問題は公共的ではないのか。また、公共的の基準は何か。

エ 公務員には憲法を尊重し擁護する義務がある。表現の自由を侵害し、法の下での平等に反したことは憲法違反ではないか。

- (2) ビラ配りを許可され、使用した市民団体からの疑問について、以下を問う。

ア 使用料の徴収について、テントで長時間占有する場合と通行の妨げにならないよう立つ場所を変えられるビラ配りを同じにするのはなぜか。

イ 営利を目的としないビラ配りや署名運動を行う申請者から使用料を徴収する目的は何か。

ウ 使用を許可した市民団体を監視する行為は、憩いの空間とにぎわいの創出という目的には逆効果ではないか。

- (3) 周南市徳山駅前広場等条例の見直しについて、以下を問う。

ア 条例は、上位法である憲法や法律を超えてはならない。表現の自由の重要性に照らせば、許可を要する場合というのは厳格に定義されるべきではないか。

イ 防府市が要綱で定めるように、募金・署名活動・宣伝・ビラ配りは条例に定めないとした見直しをしてはどうか。

2 選挙公報の配布について

- (1) 令和 7 年 7 月 20 日執行の参議院議員通常選挙において、ポスティング業者が投票日の 2 日前に配布した地域がある。期日前投票を市民に呼びかけている中、配布が遅かったのはなぜか。

- (2) ポスティング業者以外による配布も検討してはどうか。

3 エアコン購入・設置費用の助成について

- (1) 高齢者世帯のエアコン設置の把握のため、高齢者保健福祉実態調査の項目にエアコンの有無を加えてはどうか。

- (2) 生活保護受給世帯のエアコン設置率は。

- (3) 低所得世帯へのエアコン購入・設置費用の助成制度を設けてはどうか。

4 休日夜間急病診療所の「休日」「平日」の表記等について

- (1) 休日夜間急病診療所の電話案内及び市広報・ホームページの診療日の案内及び表記について、「平日」を「月曜から土曜」、「休日」を「日曜、祝日」としてはどうか。

20 青木義雄（自由民主党周南）

1 道の駅ソレーネ周南について

- (1) 会派自由民主党周南で道の駅西条のん太の酒蔵を視察した。本市道の駅ソレーネ周南と共通点も多く、参考になった。そこで、以下を問う。
- ア 施設整備・運営方式について、DBプラスO方式よりもDBO方式を最優先とするべきと思うがどうか。
- イ 民間活力を最大限発揮できるようにもうかる道の駅を模索してはどうか。
- ウ 駐車場が拡張されるが、大型車と小型車の明確な振り分けが機能面・安全面からも重要となるがどうか。
- エ 満車を想定したトイレの数が不可欠と思うがどうか。
- オ 今後の展開として、観光・ブランド戦略拠点としての取組が重要となってくると思うがどうか。

2 戦後80年事業について

- (1) 戦後80年を迎え、多くの報道等でも取り上げられ、戦後80年事業はタイムリーな事業である。そこで、以下を問う。
- ア 事業の進捗状況と成果は。
- イ 今後の事業展開は。

3 熱中症対策について

- (1) 山口県の熱中症警戒アラートの発表状況は。また、市の熱中症対策は。

21 吉安新太（志高会）

1 ひきこもり支援について

- (1) 本市における実態は。
- (2) ひきこもり支援ステーションのふらっとコミュニティひなたが開設されてからの状況は。

2 精神疾患について

- (1) 精神障害者保健福祉手帳の保有者数は。
- (2) 自立支援医療制度の利用者は。
- (3) 精神疾患のある方や、その家族が相談できる体制はどのように整備されているか。

22 渡辺君枝（日本共産党）

1 市営住宅の在り方について

- (1) 退去時の費用について、以下を問う。

ア 公営住宅法に基づく運用がされているか。

イ 「市営住宅入居者募集のご案内」には退去時の修繕費について記載がないがどうか。

(2) 入居希望者本人以外は書類を受け取れないのはどうしてか。

(3) 入居者が死亡した場合、同居していた家族は住み続けられるのか。

(4) 高齢化が進む中、市営住宅の空室を利用したデイサービスや保健師による健康相談などはできないか。

2 JR岩徳線の利用促進について

(1) JR岩徳線団体利用助成事業の利用状況について、以下を問う。

ア どのような団体が利用しているか。

イ 事業効果はどうか。

ウ 今後も引き続き継続するのか。

(2) JR岩徳線が天候等の影響で運休を繰り返すことから、通勤・通学で利用している市民は大変困っている。日常的な点検、保線作業をJR西日本に働きかけるべきではないか。

3 多文化共生社会の実現について

(1) 今年7月に青森県で開催の全国知事会議における「青森宣言」で、「排他主義、排外主義を否定し、多文化共生社会を目指す我々47人の知事がこの場に集い」とうたわれているが、排他主義、排外主義について本市の姿勢はどうか。

4 マイナ保険証と資格確認書等の混在について

(1) マイナ保険証と資格確認書等の混在により医療機関での資格確認事務が煩雑になっているが、医療機関への周知はどのようにしているか。

(2) マイナ保険証と資格確認書等の混在による具体的なトラブルの事例はあるのか。

5 学校給食費の無償化について

(1) 骨太方針2025において、給食費無償化については、「令和8年度予算の編成過程において成案を得て、実現する」と明記されたが、本市はどう受け止めているか。また、準備は進んでいるか。

2 3 有田 力（自由民主党周南）

1 自転車利用の普及促進について

(1) 自転車による事故件数と実態は。

(2) 県ではサイクル県やまぐちProjectがあるが、本市のサイクリングに対する考えは。

(3) 観光地ではシェアサイクルやレンタサイクルが普及している。本市での普及促進に対する考えは。

2 公園の維持管理について

(1) 本市にある公園の数は。また、どのような維持管理をしているのか。

(2) 公園の利用ルールについて、どのように定められているのか。また、子供たちにとって、利用しやすい環境を整えるべきと考えるがどうか。

3 スポーツを通じた地域振興について

- (1) 本市としての取組は。
 - (2) 本市には、実業団チームとして活動しているACT SAIKYOやYMGUTSがあり、市民との交流が盛んに行われている。こうした状況を広く市民に周知する取組を行っているかどうか。
-

2 4 島津幸男

1 職員による準公金の不正流用に関連して

- (1) 公金とは何か。
- (2) 公金の収納時期はいつか。
- (3) 監査委員からの意見及び勧告を提出できないか。
- (4) 準公金の管理状況に係る調査結果報告書は公表されているが、公金に関する調査についてはどうか。
- (5) 市政に関する調査に対する回答の中で黒塗りになっている部分があるが、黒塗りにした法的根拠とその理由は。

2 和田支所・市民センター移設整備について

- (1) これまでの整備方針等の経緯及び今後の予定は。
 - (2) 移設候補地を米光地区とした理由は。
 - (3) 防災上、移設の必要があるなら早急な対応をすべきではないか。
-